

# 出猟記録の分析結果の報告(Ⅱ)

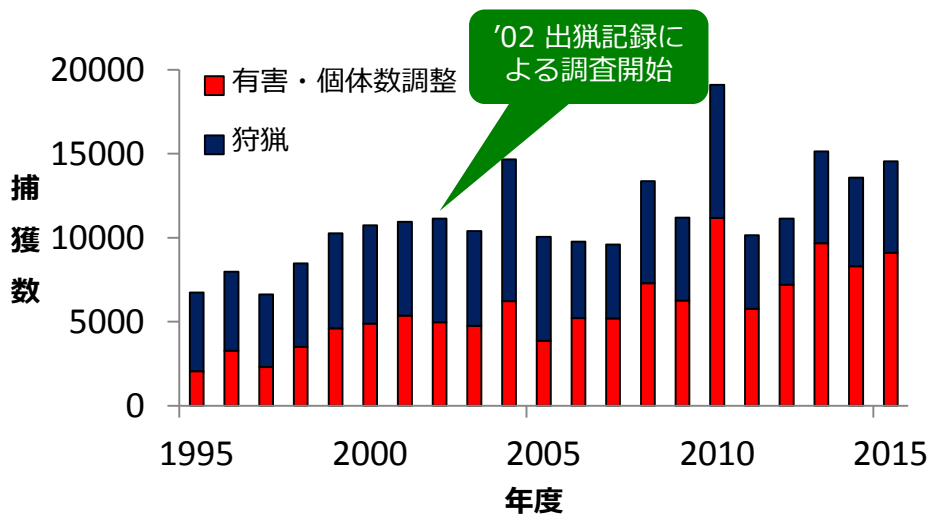
## —イノシシ編—



— 島根県の狩猟者のみなさまへ —

毎年、出猟記録にご協力いただき、誠にありがとうございます。  
この分析によって、イノシシの生息分布域や生息数の変動を把握することができました。  
2014年に(Ⅰ)を報告しましたが、その後の分析結果(Ⅱ)の一部を紹介します。

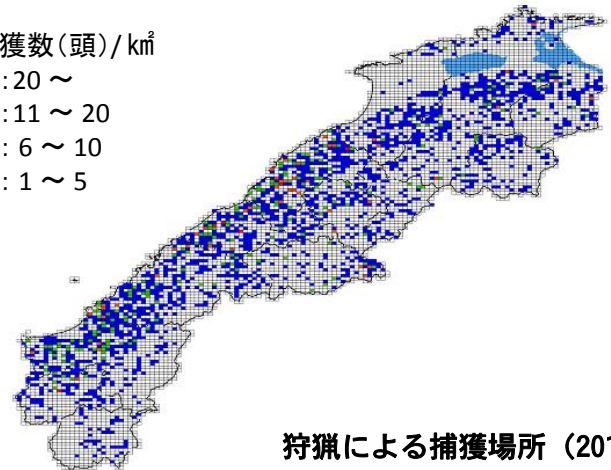
### 狩猟による捕獲数と捕獲場所



近年は、狩猟と有害・個体数調整を合わせて、13,000頭程度が捕獲されており、高い捕獲圧がかかっていることがわかりました。

捕獲数(頭)/km<sup>2</sup>

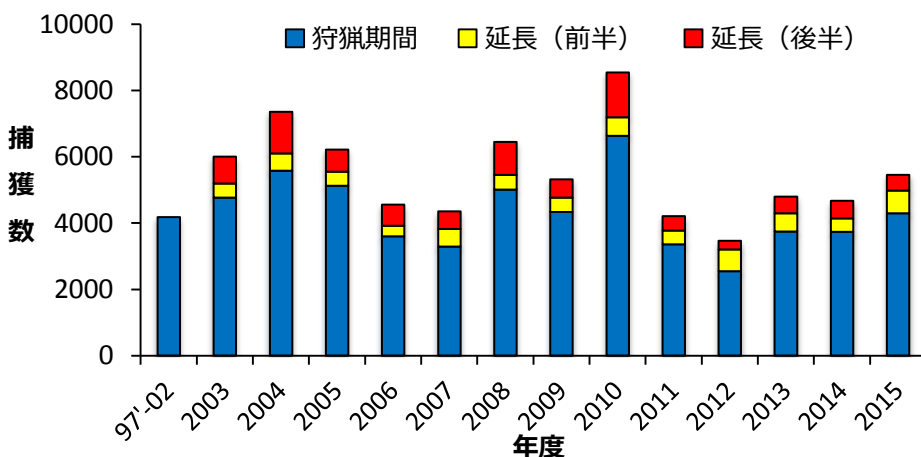
- : 20 ~
- : 11 ~ 20
- : 6 ~ 10
- : 1 ~ 5



狩猟による捕獲場所(2015年度)

日本海側の低標高域を中心に捕獲されていました。また、島根半島での捕獲場所は、東端の旧美保関町にまで広がったことがわかりました。

### 猟期延長による捕獲への効果



本県では、2003年度から猟期間を11月前半と2月後半に合わせて1か月間の延長をしています。この両期間中の捕獲数が21~36%を占めたことから、捕獲数を1.2~1.4倍に増加させたことがわかりました。

### 生息数(捕獲効率CPUE)の動向

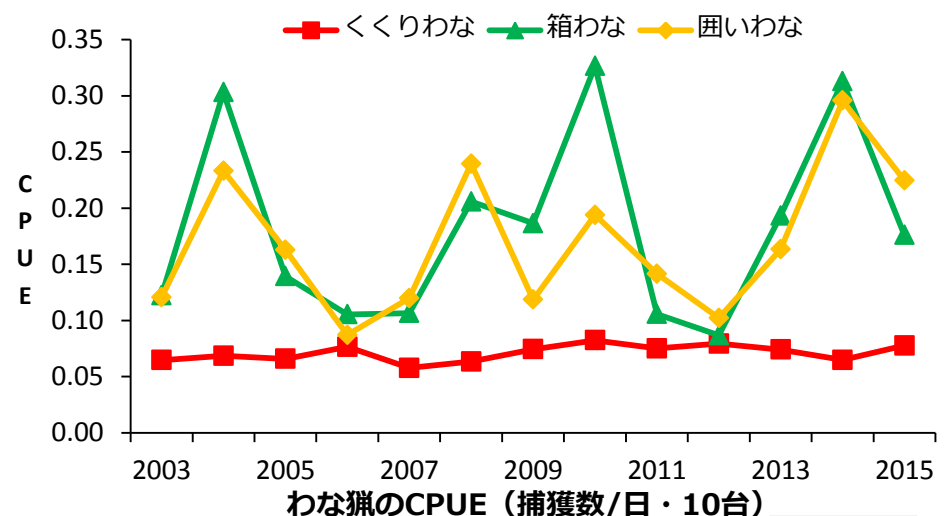
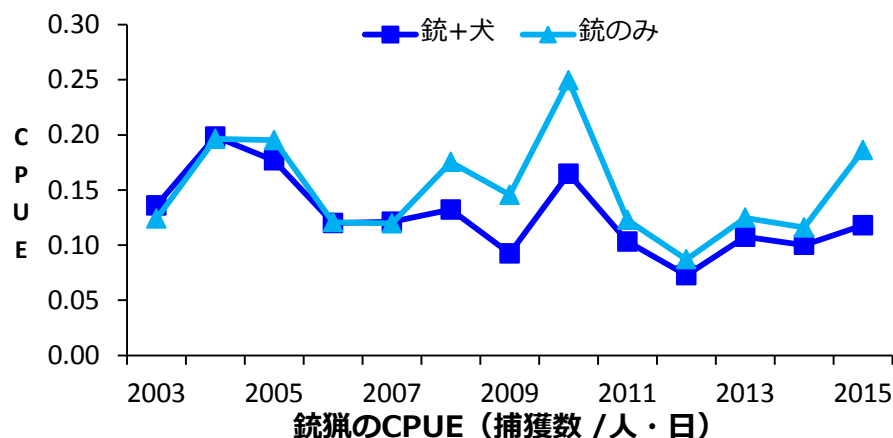


CPUE (Catch per Unit Effort) とは

イノシシの生息数の変動をみるための指標となる数値です。出猟記録から、いつ(月日)、どこで(メッシュ番号)、何が(性別、成幼獣)、どんな方法によって、何頭捕獲されたのかを集計し、本県のイノシシの生息数の変動を推定しています。

$$\text{銃猟のCPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{出猟日数} \times \text{出猟人数}} \quad \text{わな猟のCPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{設置日数} \times \text{わな台数}}$$

銃猟は積雪量に、箱・囲いわな猟は堅果類の豊凶に影響を受けていました。気象や堅果の豊凶に影響を受けにくいくりわな猟のCPUEは、ほぼ変動がないことから、イノシシの生息数もほぼ一定で推移していると考えられました。



イノシシの生息数を適正に管理するために今後ともご協力をよろしくお願いします。